

開成の杜

第102号 ●2016年12月20日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口 修



創立70周年・挨拶する関口修理事長

(撮影 山口郁生)



理事長・学園長
関口 修

学園は今年で創立70周年を迎えました。これは学園の誰しもが承知のことです。その準備は以前から始められていました。学園が現在に至るまでの苦難を克服するにはとても沢山の皆さまから多くの御支援を戴きました。

学園は何度か苦難に遭遇しましたが、其の都度、地域社会の御理解を得て、危機を逃れることが出来まして。これは、即ち、災い転じて福となすための知恵が学園教育の随所に存在していた事によるものであり、当時の教職員による努力の賜物と云えるでしょう。

学園が創立記念式典を実施する意義は、永年御世話になった方々を御招きし、感謝の誠を表して御礼を申し上げることにあります。その式典にあたり、嬉しかったことが二つありました。一つは学生・生徒の代表が晴れやかな姿で御祝として祝意を届けてくれました。二つ目はまさに、学生・生徒の皆さんが式典のなかで御来賓に感謝の思いを伝えられたことで、教育の成果を立派に示していたとの評価をいただいたことです。なかでも、文部科学省の常盤高等教育局長からは学生・生徒の品位が素晴らしいとお言葉をいただきました。これからも真実

めぐり来る歳に

の女子教育を求めめる努力を継続してまいります。

今年にはリオデジャネイロのオリンピックが起きました。2016年は残すところが少ない年、新しい歳を迎える準備を整へる時期となりました。

新年と云う言葉の響きには期待に満ちた想いになりますが、皆さんは如何でしょうか。

大きな夢をいだいている皆さんですから、夢を実現に導く手立ては考えているものと思えます。しかし、現実を直視すると思うように行かないことも多いのですが、一つ一つ問題を解決する根気のいる努力が求められます。

夢の実現に向けて努力を重ねて下さい。

昔から、同窓会の皆さんは同窓会館設立のため、会費を積み立ててきたようですが、目的達成までには程遠かったようです。そこで、故名誉学園長先生の居宅を改築し、同窓生が喜んで使用出来る会館を創設しました。

同窓会の皆さんは学園創立70周年を記念して多額の基金を用意し、学生・生徒のために、奨学金として役立ててほしいと学園に寄付をしてくださいました。学生・生徒の皆さんの夢の実現に役立てて欲しいと願っています。

先輩諸姉の期待に応えるのは皆さんです。

さあ、来年こそ夢の実現に努めましょう。

学園創立70周年を祝う記念式典挙行

80周年に向けて更なる一歩を

昭和22年、先人の拓きしこの開成の杜に産声を上げた学校法人郡山開成学園は、今、創立70周年の輝かしい年を迎えた。

10月25日、全国から来賓をお迎えし、記念式典を挙行した。学生、生徒、園児、教職員一同はさらなる本学園の充実、発展に向けて全力を尽くすことを誓った。

式典は郡山開成学園オーケストラによる式典序曲「大空へ」の演奏で始まった。始めに関口修学園長が式辞を述べ「本日お集まりの皆さんや関係各位のご協力により、幾多の危機を乗り越え70周年を迎えることができました。心から感謝申し上げます。これからも女子の高等教育の普及、向上を目的に、地域社会への貢献に全力で寄与します」と述べた。来賓祝辞では次の方々からお言葉を頂いた。

文部科学省高等教育局長 常盤 豊氏



発展する開成学園



祝賀会での鏡開き



感謝状を受け取る横井浩氏(中)と安斉悦子氏

感謝状の贈呈の方々

日本私立学校振興・共済事業団 理事 栗山 雅秀氏
郡山市長 品川 萬里氏
全私学連合 事務局長 小出 秀文氏

式典の席上、附属高校部活動の支えとなった横井浩氏、学園の発展に物心両面で尽くされた郡山女子大学短期大学部同窓会会長 安斉悦子氏に感謝状が贈られた。

また、祝賀会では関口理事長はじめ来賓の常盤豊文部科学省高等教育局長らが鏡開き、千本杵の餅つきを行い70周年を祝った。祝賀会の席上、附属高校食物科の講師を務める郡山ビューホテルの村上利夫氏(洋食)、小川健治氏(和食)、石井利幸氏(中華)に感謝状が贈られ、3氏が県産食材を使用した料理が提供された。

声を合わせて記念歌を高らかに



感謝状を受けた右から村上、小川、石井の各氏

教職員が袖舞台に並び、学生生徒よ健やかに育て...と若者賛歌「吾子」を合唱。これを受けて学生生徒が応答歌「青春の確かさを 今」を歌い、最後は全員による合唱が記念講堂一杯に響きわたり、感動の輪が広がった。

式典の結びは学生、生徒による「誓いの言葉」。壇上には大学院代表の長沼美帆さん、大学代表の穂積春乃さん、短期大学部代表の高橋未那さん、附属高校代表の佐藤千桐さんの4人が壇上に上がり代表の穂積さんが「誓いの言葉」を述べた。以下、その一部を抜粋する。「学校法人郡山開成学園は尊敬、責任、自由の建学の精神のもとに、女子の高等教育の普及と向上を目指して



誓いの言葉を述べる穂積春乃さん(中央)

昭和22年に開学され、ここに創立70周年を迎えました。この栄えある記念の年に、この学園に在学できますことを、院生・学生生徒一同、誠に嬉しく思っております。私たちは本学設置の趣旨を尊重し、日々、励んでいます。学園創立以来70年間にわたって、故・名誉学園長先生、学園長先生をはじめ、諸先生、先輩の皆様が築き上げてこられた、この伝統を守り、ますます発展するよう努めてまいることをお約束いたします」。

世代を超えて受け継がれていくもの



郡山開成学園家族会 会長 日向 恵

学校法人郡山開成学園の創立70周年、誠にありがとうございます。家族会の皆様を代表致しまして心よりお喜び申し上げます。

緑豊かで四季折々の花々に囲まれた開成の杜を拠点とする学園環境の中で、日々学ぶ事が出来る幸せを、それがどれほど大きなことなのか、現役の学生、生徒の皆さんは考えてみたことがありますか。女子教育の重要性を考え、戦後間もない時代から、家政哲学を創出し学園教育に心血を尽くされた、創立者の関口富左先生を始め熱意ある先生方。「尊敬」「責任」「自由」この3つの建学の精神を受け継ぎ、学園の更なる発展と向上にご尽力頂いている現学園長の関口修先生を始め、多くの優秀な先生方のご指導があればこそ、毎日安心して学び更なる学力向上、各

同窓生としての誇りを胸に



郡山女子大学同窓会 会長 名倉 美恵子

学校法人郡山開成学園創立70周年を迎えられましたこと、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

70年の間に、この学園で学んだ同窓生は、学園内はもちろん、それぞれの立場で、多くの皆様が地域社会において活躍されております。

分野における技術の向上が図れるのです。東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故という未曾有の出来事もありましたが、その様な大変な時でも、先ずは、学生、生徒の皆さんの安全、そして地域の皆様へのサポート、そして一日も早い学園生活と地域の復興の為、除染作業を始め迅速丁寧な学園の対応のおかげで、今まで以前と同様の生活を取り戻しつつあります。70年という歴史の中で、様々な分野で活躍されて来た先人達の努力と叡智を生かし、人として、女性として、思慮深く愛情豊かでしなやかな感性を磨き上げ、ご自分の大切な家族や世の中の大切な一人である事を忘れずに、日々を送って下さい。先輩方から渡された本学園の伝統と文化、校風という名のバトンを今度には、皆さん方から後輩の方々に確実に手渡し、次世代への大きな一歩となる夢や希望を繋いで下さい。次の5年、10年へと続く本学園の未来が輝かしく、更なるご発展を祈念申し上げましてお祝いの言葉とさせていただきます。

故名誉学園長関口富左先生が、戦後に女子の高等教育向上のために、郡山女子専門学院を創立され、「尊敬・責任・自由」の建学の精神の基、多くの学生達がこの学園で学び、学園長先生をはじめ、多くの教職員の方々に支えられ、また、恵まれた環境の中で、歴史と伝統を築いてこられました。創立70周年を機に、新たな風を吹きこみ、歴史と伝統が受け継がれてゆくのだと実感しております。学園の発展は、同窓生として大切な学び舎であり、誇りでもあります。これからも益々ご発展されますことを祈念申し上げます。

伝統の灯は脈々と...



創設者
故 関口富左 名誉学長・学園長

学校法人郡山開成学園は昭和22年から始まった。戦後の荒廃した世情を憂い、女子の高等教育の普及と向上を目的に故関口富左名誉学長、学園長が郡山女子専門学校を創設した。

「女性が一人の人間として自己を磨き、成長しうる場を作りたい」との願いは、昭和25年に実現した。日本に初めて設立された109校の短期大学として認可されたものである。引き続き附属幼稚園を併設。昭和32年には附属高等学校を新設して、5年教育連携を図り、さらに高大連携7年教育の場として郡山女子大学を誕生させた。

そして、平成4年の大学院修士課程、平成8年博士(後期)課程の開設で学園構想が確立され、女子教育の総合学園として発展している。学園は建学の精神として「尊敬・

責任・自由」を定めた。お互いの個性を尊重し、敬愛できる豊かな人柄を創ること、そして他者においてそれを認めること。人間として存在するためには責任ある行動で社会への自覚をもつこと。つまり、学園の規則を守りながら、個性を尊重し、互いに理解する「個」の確立と「他」との協調をもち、自主、自立できる女性としての人間形成を図ることを目的とした。

そして感動の教育を基本とし、感性と知性の融合として「芸術鑑賞講座」を年4回、「教養講座」を年3回実施し、芸術文化教育を必須としている。

最高の芸術に触れ「よきもの」に対する基準を知る「芸術鑑賞講座」

また、地域の子どもたちを対象とした科学実験教室、親子料理教室、劇とあそびのつどいなどを開催、積極的に地域貢献に参加している。

また、地域の子どもたちを対象とした科学実験教室、親子料理教室、劇とあそびのつどいなどを開催、積極的に地域貢献に参加している。

また、地域の子どもたちを対象とした科学実験教室、親子料理教室、劇とあそびのつどいなどを開催、積極的に地域貢献に参加している。

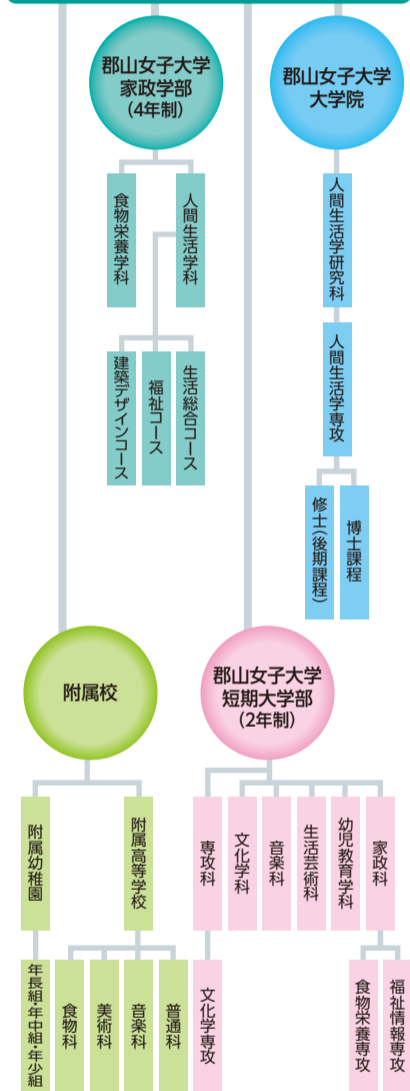
また、地域の子どもたちを対象とした科学実験教室、親子料理教室、劇とあそびのつどいなどを開催、積極的に地域貢献に参加している。

また、地域の子どもたちを対象とした科学実験教室、親子料理教室、劇とあそびのつどいなどを開催、積極的に地域貢献に参加している。

また、地域の子どもたちを対象とした科学実験教室、親子料理教室、劇とあそびのつどいなどを開催、積極的に地域貢献に参加している。

学園の組織図

学校法人郡山開成学園



学園70年のあゆみ

昭和22年 4月	故関口富左名誉学園長・名誉学長、教育学博士は、郡山女子大学・郡山女子短期大学の母体となった郡山女子専門学院を創立。	
昭和25年 4月	日本最初の短期大学の一枚として文部省より認可を得、名称を郡山女子短期大学とし、家政科を開設。	
昭和30年 4月	東北地方最初の保育科(現・幼児教育学科)、生活芸術科を増設すると共に保育科の実習園たる附属幼稚園を付設。	
昭和32年 4月	附属高等学校を新設し、短期大学各科との連携を図る5ヶ年教育を実施。	
昭和41年 4月	創立20周年を迎え郡山女子大学を開学、家政学部として生活経営学科、被服学科、食物栄養学科一食物栄養専攻、同管理栄養士専攻の3学科2専攻を設置した。大学の設置により短期大学の名称を郡山女子短期大学と改称。附属高校と連携し7ヶ年教育を実施。	
昭和43年 4月	短期大学部に音楽科を増設、家政科を家政専攻(現・福祉情報専攻)、食物栄養専攻に分離し専門教育の充実を図る。	
昭和51年 4月	創立30周年を迎え種々の記念行事を行う。	
昭和56年 4月	短期大学部に文化学科を開設。	
平成4年 4月	郡山女子大学大学院開学。人間生活学研究科修士課程を設置。	
平成5年 4月	放送大学と単位互換協定締結。(平成9年6月福島学習センターを誘致し、母体校となる)	
平成7年 6月	ハワイ州立大学コミュニティカレッジと姉妹校締結。故関口富左名誉学園長・名誉学長がハワイで調印。学術相互交流を推進。	
平成8年 4月	家政学を究める日本初の大学院博士(後期)課程開設。創立50周年記念式典挙行。	
平成9年 1月	大学入試センター試験会場校、現在に至る。	
平成10年 3月	日本大学工学部(郡山市)との単位互換協定締結。	
平成12年 4月	短期大学部に専攻科(文化学専攻)を開設。大学、短期大学部新入生全員にノート型パソコンを無償貸与を開始。	
平成15年 3月	大学院で初の学位記授与。家政学博士5名誕生。	
平成18年10月	創立60周年記念式典挙行。	
平成21年 3月	福島県高等教育協議会加盟大学(16校)間の相互単位互換協定締結。(アカデミア・コンソーシアムふくしま)	
平成23年10月	エコ大学ランキング私立大学の部第一位に選ばれる。	
平成26年10月	自由服へ移行。	
平成28年 4月	学園創立70周年を迎える。	

地域貢献活動

大学は地域に根ざした学園として様々な地域貢献活動を行っている。

商都郡山市の夏を彩る「うねめまつり」に毎年500人を超える学生・教職員が参加、2年連続「うねめ踊り流し」コンクールで大賞を受賞している。

また、地域の子どもたちを対象とした科学実験教室、親子料理教室、劇とあそびのつどいなどを開催、積極的に地域貢献に参加している。



2016年8月わくわく子ども大学in郡山女子短大



2016年うねめまつり踊り流しコンクール

学園と共に70年



郡山女子大学短期大学部 同窓会会長

安斉 悦子

短大第1回生は卒業を迎える年となり、今年で卒業生は26300余名を数えます。学園と共に歩んだ年月はひとり一人が紡いできた、語り尽くせない思い出と、共に勉学に励んだ幸せな日々であり、学びは生涯の財産になりました。

心のふるさと



郡山女子大学附属高等学校 同窓会会長

大木 恭子

創立70周年誠におめでとうございます。 「よべば答える母の声 ああなつかしい学びやを…」 校歌の詞をくちさむたびに素晴らしい環境下で学べた思い出が心よりお祈り申し上げます。

学生たちの活躍に期待



郡山女子大学附属幼稚園 同窓会会長

種橋 直純

郡山開成学園創立70周年おめでとうございます。 この学園を訪れるたびに、関口富左名誉学園長先生の遺志を様々なところで感じる事が出来ます。 学生の自信に満ちた姿を見て、建学の精神である「尊敬」「責任」「自由」が、より強いものになっているように思います。

涯の財産になりました。

その中で、3・11の未曾有の大災害は、科学万端の時代であっても、人との絆が多くを命を救い希望をもたらすことを学びました。記念すべき今年、理事長先生のご配慮により念願であった同窓生が集える場所として学生会館が誕生しました。今後は会館を核に同窓の絆のみならず在学生との絆も深め、一層社会貢献が出来るよう願っています。学園の存在は同窓生の誇りであり、人生の指標です。80年に向けて学園のさらなる充実・発展をご祈念申し上げます。

走馬灯のように浮かび、自然と目頭が熱くなるとともに母校への感謝の念を抱く思いです。 「尊敬・責任・自由」の下、女子教育に力を注がれた故名誉学園長、関口富左先生の母親の様な温かい眼差しを忘れることなく、そしてこの学び舎を卒業した誇りを私達は今後多くの人々に伝え、開成学園の更なる発展に全力を尽くしていきたいと強く感じます。

私たちの心のふるさと… 郡山開成学園の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。 うにも思います。 学園の中で様々な活躍や、卒業された方々の活躍も輝かしいものがあります。

これからの学園生活において、一人でも多くの方が、学園を通じて様々なことを体験し、人生を「幸せ」と感じる事が出来るようになればよいと思っています。そして、今後とも女性らしい素敵な人材を世に輩出して頂きたいと思っております。

学園の益々の発展を祈念いたしております。





郡山開成学園よ 永遠に

創学の祈りを永久に



郡山女子大学 副学長
石堂 常世

去る10月25日に建学記念講演で行われた学園創立70周年記念式典は、素晴らしい天候に恵まれ、学園関係者のみならず来賓の方々にとっても最高の贈り物となった。この記念すべき式典が、本学園のこれからの歩みを祝福し、今後さらに堅固にして豊饒な人間形成の場となることを心からお祈りしたい。この佳き



食物栄養学科 主任教授
紺野 信弘

食物栄養学科は、当初の定員は30名であったが、2000(平成12)年度には60名、2004(平成16)年度には80名に増加した。また3年度には編入生枠を10名設けており、東日本大震災直後に減少した入学者数はほぼ震災以前の状態に回復しつつある。「管理栄養士」という国家試験受験資格を取得でき

さらなる発展に向けて



郡山女子大学副学長
大学院主任教授
人間生活学科主任教授
影山 彌

今年には学園創立70周年の記念すべき年である。それは学園70年の歩みを思い起し、未来につづくその歩みの確かさを確認することである。

先ず想起すべきことは、学園創立者・故関口富左名譽学園長先生が創られた建学の精神、尊敬・責任・自由である。建学の精神は、先

日に、本学園の70年間の歴史に改めて思いを致し、創設者にして名譽学園長の故関口富左先生の女子教育私学経営への情熱と信念に対し、尊敬の念を新たにした次第である。終戦直後の混沌とした、しかし希望にあふれていた明るい空の下で、羽仁もと子の個人の尊厳、個性の尊重への思念を、教育基本法の制定をバックボーンとして確固たる使命として凝縮され、学院の創設に向かわれたそのお姿を永遠に讃えたい。そしてこの尊崇の念を、求るべき80周年、いな100周年への栄えある礎にして、人間の美しさを育みつつ成長し続ける学園であれと願うのである。

ることが本学科の充足率を支えていることは論を待たない。入学した学生が初期の目的を達成できるように教員一丸となって鋭意応援、努力している。新たな10年を歩みだすにあたり、カリキュラムの変更も加えながら時代が求めている管理栄養士の養成に努める所存である。世はまさに高齢社会に突入り、健康寿命の延伸が叫ばれている。ロコモティブシンドロームに代表されるように運動の重要性も指摘されており、健康に対する強い意識と幅広い視野を持つ「食と栄養」の専門家を世に送り出す覚悟である。

生が念願された人間像・女性像、すなわち人間各個人の能力と個性、男女平等、社会的責任、仕事と家庭の充実、母性としての女性など、と日本国憲法・教育基本法の示す、個人の尊重、自主・自律の精神など、との融合の中から創出されたといわれる。そして三精神は新時代の女子教育の理念として指向されたのである。

東日本大震災、それに伴う福島原発事故以降、学園は厳しい試練に直面し、学園長先生の指導のもとに、学生、生徒、全教職員が一丸となって打開に取り組んできたところである。

創立70周年を祝して



幼児教育学科 主任教授
三瓶 令子

幼児教育科は平成27年(2015年)に、学科創設60周年を迎えた。学園創立から9年目に開設され、この学園の発展とともに歩みを進めてきた。この10年の間には名称も従来の保育科から現在の幼児教育学科と変更され、県内はもとより東北一円や関東圏でも卒業生が活躍をしている。近年は子育て支援に対する国や社会の意識が高く、平

生活芸術科は1955年、美術によつて環境を美化し、豊かな生活を創造していくことを目的として開設された。以来、本科が教育や美術文化の振興発展のために果たしてきた役割はたいへん大きなものがある。しかし現代日本、特に教育を取り巻く環境は激変し、極めて厳しい状況にあると言わざるを得ない。少子化、



生活芸術科 主任教授
浅野 章

時代は進む

一部貧困による教育格差、さらに福島県には原発事故の後遺症さえある。そんな中でも時代は確実に、そして容赦なく進んでいく。このような状況下で開成学園、及び本科が魅力あり信頼される教育機関として進化し続けるにはどうすればよいか。そこには時代を読む柔軟な発想と行動力が必要だと思われる。地方私立大学再生の鍵を握るのは「地域創生」と「開かれた大学」だと言つてよいだろう。変化を恐れては前に進めない。今までの、優れた学園思想を受け継ぎながらも学園の知恵を結集し、大胆な変革が成功すれば必ずや明るい未来が訪れると私は確信する。

幼児教育の本質を見失うことなく



郡山女子大学附属幼稚園 園長
賀門 康博

本園は幼児教育の本質を求めて「よくみる よくきく よくかか」を教育目標として、子ども達の成長と学びの本質である遊びを通しての教育を行っている。子ども達が育つ力を見つめつつ、人生における学びの基礎としての幼児期を大切にしている。

ように子どもが育つ環境は大変な変化の渦中にある。本園でも、幼稚園の前身として、子ども達同士が繋がりはじめた2歳の育ちを大切にしたい思いを込めた、「2歳児クラス」や、卒園後の学童期の育ちを大切にしつつ、それが園児達の地域の仲間との繋がりになればという思いを込めて「学童保育」を実施している。

のびのびとした環境

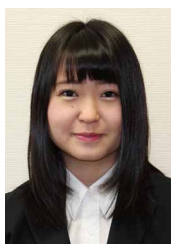


郡山女子大学附属幼稚園 父母会会長
喜多 和江

郡山開成学園創立70周年誠におめでとうございます。戦後、故関口富左名譽学園長先生が、女子の高等教育の普及と向上を目指し「尊敬・責任・自由」の建学の精神を基に女子教育機関として重要な役割を担い、地域社会に大きく貢献されてきました。

東日本大震災、原子力発電所事故後には、除染作業や保護者向けに放射能に関する講座の開催などに迅速な対応をしていただきました。外遊びの制限という期間もありましたが、安心して子どもたちが幼稚園で過ごす環境を整えていただき、感謝申し上げます。

創立70周年を迎えて



郡山女子大学 学友会会長
穂積 春乃

学校法人郡山開成学園は「尊敬・責任・自由」の建学の精神のもと、女子の高等教育の普及と向上を目指し、ここ開成の杜に開学されました。私は、学園創立70周年という栄えある記念の年に、この学園に在学できますことを誠に嬉しく思っております。

を経験しましたが、学園の迅速な対応により、すぐに安心して学園に通うことができました。故・名譽学園長先生、学園長先生をはじめ、諸先生、先輩の皆様が築き上げてこられた伝統を守り、自分で考え行動する女性になれるよう日々精進して参ります。



福祉情報専攻の歩み



短期大学部副学長
家政科福祉情報専攻
主任教授
石村 由美子

本専攻は、家政、福祉、情報、ビジネス系科目を学びの核として教育の充実を図り今年度で15年目を迎えた。取得できる免許状及び資格は、中学校教諭二種免許状「家庭」、介護職員初任者研修修了、情報処理士⑩、社会福祉主事（任用資格）があり、教養教育と実務教育のバランスを図りながら就職に強い学科作りを目指している。

社会の期待を感じて



家政科食物栄養専攻
主任教授
坂上 茂

食物栄養専攻は、資格に相応しい専門性と社会人としての人間性の育成を目標に、栄養士とフードスペシャリストを養成している。この10年間で大学には社会との関わりとして第三者による評価や情報の公開が求められるようになった。本専攻では、建学の精神と専攻設置の目的に基づいて「ディプロマ、カリキュラム、アドミニシヨ

夢を未来につなげる教育



附属高等学校
校長
佐々木 貞子

郡山女子大学附属高等学校は、建学の精神及び高校教育三目標を具現しつつ、確かな学力と豊かな教養を身につけ、生涯にわたって地域社会に貢献する女性の育成に努めている。

普通科・音楽科・美術科・食物科の4つの学科を有し、熱意あふれる教職員が生徒一人ひとりの

学生指導では「一人一人を大切に、一つ一つを丁寧に」をモットーとして、少人数学科の特性を活かし、ボランティア活動や多くの体験学習によって柔軟な汎用力とコミュニケーション能力を身に付けた人材づくりを注いでいる。これらの教育成果は、この5年間の就職内定率100%と、休・退学者ゼロに表れていると言える。

卒業生は、高齢社会、情報社会の担い手として専門性を活かして幅広く活躍し地元企業の信頼を得ている。また、今年度は短大の企画による子どもたちを対象とした教育プログラムに参加し、幅広い専門性と力強い実践力を地域社会に貢献するための一翼を担い、新たな地域創生を目指して第一歩を示すことができた。

「の3つのポリシーを策定し、公表している。また、市民向けの公開講座（料理教室）を開催してきている。変化が激しい現代においては常に進化が求められている。策定したポリシーなどは検証し、必要に応じて変更を加えている。予測困難なこれからの社会では、卒業後も主体的に学びながら未来を創造できる人材が必要である。東日本大震災以降、福島県内では栄養士と管理栄養士が不足しているようである。本専攻には実力のある栄養士の養成がますます期待されている。社会の期待に応じて発展するために、さらなる改革を続けて行きたい。

「好き」を追求し、7校時授業・自習室の活用・補習や学習合宿・国際交流等、さまざまな学習体験を通して夢を未来につなげる指導を着実にすすめて、希望進路の実現に込めている。さらに、心をこめた日常の生活指導は情操を育み、世界の一流に触れる芸術鑑賞講座・教養講座は感性を磨いて、豊かな教養を涵養していると確信している。生徒たちは、学業にも部活動にも逞しく挑戦し、人の役に立つことに喜びを感じる日々を送っている。家族会・部活動後援会・同窓会・退職教職員が強い絆で支える校風の下、生徒一人ひとりが個の

音楽科——この10年——



音楽科
主任教授
岡部 富士夫

音楽科は1968年の創設以来、基本的な能力の育成を第一義としながらも学生の個性尊重の教育理念のもと、有為な人材を数多く輩出してきた。音楽家として、また教育者として活躍する卒業生は多く、地域の音楽文化発展に大きく貢献してきた。音楽療法士養成課程導入後は音楽療法士として活躍する卒

地域で文化と歴史を学ぶこと



文化学科・専攻科
主任教授
野澤 謙治

文化学科が創設されたのは1981年であった。当時、中央に集中したヒト・モノ・カネ・情報を地方に逆流させるため地方が主役になることが声高にいわれた。文化的現象としては地方に美術館や博物館などの文化的施設が雨後の竹の子のように生まれ、そこの専門職を養成することが文化学科創設の目的であった。そして今、再び地方創生が国の政策として進められている。歴史は繰り返すというが、まさにその歴史の実験の場にめぐりあわせたことは幸福(?)なことである。

確立と他との協調を図り、生涯にわたって美しい「私を創る」ことに努力する、その姿を私たち教職員は応援し続けたい。

女子教育に情熱を傾けた学園創設者 故関口富左名譽学園長先生の熱い想いを継承し、開拓精神が息づくこの開成の杜で大切に繋いできた伝統に新しい風を柔軟に取り入れながら「チーム附属」はこれからも躍進を続けていく所存である。

業生も多い。現在、東北唯一の短大音楽科であり、地域に不可欠な存在であると自負している。しかし近年の18歳人口の減少に加え、東日本大震災、また原発事故に伴う風評被害、更に経済状況の悪化による学生の減少は深刻であり、ここ数年は学生確保のため、種々の新たな入試制度の導入や専攻楽器を増やすなど多面的な試みを行ってきた。しかし未だ学生増には至っていない。音楽科の今後を展望する時、不易流行を念頭に置きながら、本筋を失わず、挑戦を恐れず、音楽を学ぶ学生にとって学び甲斐のある、魅力溢れる学科の構築を今後も目指したい。

このような変わることがない歴史の繰り返しの中で一貫して文化学科が実施してきた教育と研究は地域（地方）における歴史と文化の学びであった。地域における歴史・文化的学びの特性は中央の一般的・抽象的・概念的・平面的な学びに対して殊別的・具体的・個性的・立体的な学びである。身の丈にあった学びであり、中央との関係をひたすら棚上げして地域の問題として見直すことである。

第195回芸術鑑賞講座「ウェストサイド物語」

学園創立70周年 第195回芸術鑑賞講座「ウェストサイド物語」が11月15日、3年ぶりに建学記念講堂で上演された。

昭和32年にニューヨークのブロードウェイで初演されて以来、世界中で上演され映画化もされた名作ミュージカル。日本では1974年に浅利慶太氏の演出によって上演されて以来、多くの観客に愛されている。ニューヨークのウェストサイドに住み、共に社会から差別されてきた2つの若者グループ・ジェット団とシャーク団の対立とその中で芽生えた悲恋の行方が描かれている。

70周年への誇りを胸に



郡山女子大学
短期大学部
学友会会長
高橋 未那

今年、本学園が創立70周年という記念すべき年を迎えたことを、私は短期大学部の一学生として誇りに思います。開成の杜に学園が創立されて以来、本学は女性の高等教育の普及と向上を目指してきたため、私達は今、

時代の流れの中で



郡山女子大学
附属高等学校
生徒会会長
佐藤 千栞

創立70周年という記念すべき年を迎えることができ、また、誇りに感じています。本学園は、故関口富左名譽学園長先生が、女子の高等教育の普及と向上を目指し、「女性が一人の人間として自己を磨き、成長しうる場を創りたい」とい



ダイナミックなダンスシーン

こうして学業に励むことができることに幸せを感じます。多くの知識や教養を身につけ社会で活躍できるよう、日々充実した教育環境のなかで学べることを心から喜ばしく思います。本学園では「尊敬・責任・自由」の建学の精神のもとで心身共に美しく、自立し、自分で考えて行動できる女性として謙虚な気持ちで忘れずに一日一日精進していきたいと思えます。最後になりましたが、学園のますますのご発展を心より祈念し、お祝いの言葉といたします。

う切なる願いを込めて開学されました。私たちは、郡山市内唯一の女子校である本校の充実した教育環境の中で、女性としての心豊かな人間形成を願える喜びを、日々感じています。先輩方が築きあげられた足跡は、地域社会へと還元され、やがて母となる私たち次世代の者へと着実に引き継がれています。これからは、私たち自身が本学園の伝統を創造する担い手となつて、次世代へと橋渡しができるよう努力していきたいと思えます。最後に、創立70周年を節目とし、更なる女性教育の向上と学園の益々の発展を願ひまして、お祝いの言葉といたします。

平成28年度第3回教養講座
有森裕子さん講演

平成28年度第3回教養講座が、9月21日、建学記念講堂で開かれ、元マラソン選手 有森裕子さんが「よるこびを力に」の演題で講演を行った。

有森さんは平成4年のバルセロナ五輪で銀メダル、平成8年のアトランタ五輪で銅メダルに輝いた。講演では「夢と目標を持ち、諦めない努力を持続すること」を訴え、学生、生徒、職員らが耳を傾けた。



講演する有森裕子氏



◆附属高校

【食物科】
「どんぐり食堂」の開設
食物科の生徒全員が心を一つにして美味しい食事を提供。



【マーチングバンド部】
「ザ・マーチング2016」
日頃の練習の成果を発揮し、多くの方々にマーチングの楽しさや美しさを伝えた。



【第3学年】
「ビッグアートの祝・KGC70thもみじ会歓迎アーチ」
3年生が学園創立70周年の記念すべき年に、18歳となり、大人の階段を上る気持ちを歓迎アーチに込めて、お迎えした。



「地域社会の復興と創生をめざして」
学園創立70周年のもみじ会が10月1日、2日の両日、同窓会や家族会の参加も得て全学的に開催された。来賓や家族、地域の方々5925人が来学され、本学園の総合的姿を知ってもらうことができた。

◆大学

【人間生活学科】
統一テーマ「老若男女の安全安心な暮らし」



【大学院】
「人間生活研究科」
私たちの暮らしと福島県産牛乳を用いた乳製品



【人間生活学科】
「食と健康」
健康寿命の延伸に向けて、多角的に食と健康について考える機会を提供した。

【大学院】
「食と健康」
健康寿命の延伸に向けて、多角的に食と健康について考える機会を提供した。

○生活総合コース
生活の快適と安全・安心の視点から生活者行動や意識に影響を及ぼす役割を公表
○福祉コース
生活の質の向上を目指す施設の取り組み
○建築デザインコース「リ・デザインー郡山市富田住宅地創生計画」

◆附属幼稚園

【幼稚園】
「ほくたち わたしたちの作品展」
子どもたち一人ひとりが日頃の遊びの中で描いた絵好きな絵、想像画、経験画を年齢別に発表。

【幼稚園父母会】
「子どもたちへのプレゼント」
各クラスの父母によるリサイクルで作ったおもちゃを販売。父母会員

◆短期大学部

【家政科・福祉情報専攻】
「つなごう、ささえあいの心」
地域社会を見つめて、一歩踏み出そう！
学科紹介、手芸作品展示、手作り作品バザー、地元農産物販売などを開催。

【家政科・食物栄養専攻】
「発酵食品・微生物の力」
発酵食品の製造原理や健康増進機能について紹介。

郡山開成学園大運動会

大学・短大部会

深めよう 仲間の絆
大学院・大学・短大・専攻科の学生が5種目で熱戦を展開。心地道い汗を流し復興を目指した。

【バレーボール】
1位 大・食栄3A
2位 短・食物2B
3位 大・食栄1B
短・幼教1A

【ドッジボール】
1位 短・食物1A
2位 大・食栄1D
3位 短・幼教1C
大・食栄1A

【綱引き競技】
1位 短・幼教2A
2位 短・幼教1D
3位 短・食物2A
大・食栄1A

【障害物リレー】
1位 大・食栄4A
2位 短・幼教1D
3位 短・食物1B
「未来への華麗なる変身」
地域社会の復興をめざして



高校部会

かがやけ☆附属の力
つなごう☆附属の絆
全校生が参加、力と技を競った。

【学年対抗】
○綱引き
1位 2学年
2位 3学年
3位 1学年

○玉入れ
1位 2学年
2位 3学年
3位 幼稚園

※学年総合第1位 3学年

【クラス対抗】
○竹竿リレー
1位 3年2組
2位 1年1組
3位 3年4組



【生活芸術科】
絵画・水彩画・彫刻・デザイン・工芸・CGなどの作品を展示。

【幼児教育学科】
「卒業研究発表と子どもの遊び」
学科の活動内容を発信するため、子どもの遊びについての紹介や玩具の展示、卒業研究などの活動の記録、絵本についての研究を発表。

模擬店「メイフルガーデン」
元気な学生の笑顔とおもてなしの心で料理の提供を行った。

【文化学科】
「郡山再発見」
地域社会の復興と創生を、「地域文化」の面から考え、郡山を①宿場町②安積開拓③近代洋風建築④神社仏閣の4つのキーワードに展示や実演を通して、地域コミュニティの再建や更なる発展の可能性を模索。展示や実演を通してふくしまに暮らす人々のコミュニティ再建や更なる発展の可能性を模索した。

【音楽科】
「もみじ会演奏会」
学生、生徒の自主参加を旨とし、運営は学生の演奏委員、教員で行った。

学校法人郡山開成学園と本宮市との包括連携に関する協定締結

学校法人郡山開成学園は11月2日、本宮市役所の大会議室において、本宮市との連携協力に関する包括協定を締結した。

当日は開成学園側から関口修学長、影山彌副学長、石村由美子副学長、降矢正一事務局長らが、本宮市側からは高松義行市長、佐々木広文副市長が出席。関口学長と高松市長による協定書への署名や出席者たちによる記念撮影が行われた。



包括協定を締結した関口学長と高松本宮市長

今回、本宮市と包括協定を締結することで、地域の課題に適切に対応し、活力ある地域社会の形成・発展に寄与することが期待されている。

具体的な連携・協理事項は以下の通り。

- ①生活全般、幼児教育、食品、文化、芸術に関すること。
- ②人材育成・人材確保に関すること。
- ③健康、福祉の増進に関すること。
- ④定住・人口増加対策に関すること。
- ⑤その他必要な分野に関すること。

葛尾村と包括連携協定締結

学校法人郡山開成学園は12月6日、田村郡葛尾村役場本庁舎2階の視聴覚室で葛尾村との連携協力に関する包括協定を締結した。

開成学園から関口修理事長、紺野信弘大学・食物栄養学科主任教授、小松太志短大・生活芸術科准教授、

降矢正一事務局長、葛尾村から篠木弘村長らが出席。関口理事長と篠木村長による協定書への署名や出席者による記念撮影などが行われた。

協定の内容は次の通り。

1. 目的

開成学園と葛尾村が生活全般、食品、福祉、幼児教育、文化、芸術およびその他の地域復興に関すること、教育及び技術開発を進め、葛尾村の問題解決のために連携し協力することで、被災地全体の創生に資することを目的とする。

2. 協力する分野

- ①生活全般、食品、福祉、幼児教育、文化、芸術及びその他地域復興に関すること。
- ②地域資源を利用した人材交流の拡大等人口減少期における地域の持続的発展に関すること。
- ③郡山女子大学及び同短期大学の研究、教育及び技術開発活動の実施に関すること。
- ④その他本協定の目的達成のために必要と認める事項に関すること。

就職部

今年も「採用選考の指針」により広報開始3月スタートとなった。就職環境は売り手市場で、本学の求人数も過去最多となり、10月末現在の求人件数は前年対比1.06となっている。早期から活動していた学生は、今まで採用実績のない優良企業にも就職が内定しており、約8割の就職内定の科もあるが、幼児教育学科のように毎年就職活動のピークが10月になっている科もある。今年度も各科共に高い就職率で全員が就職できるように支援していきたい。

就職部では、大学3年生・短大1年生の就職支援として7月～1月まで、就職ガイダンスをはじめ、2月

にはキャリアアップセミナーを実施する。3月からの就職活動に備え、エントリシート対策・履歴書の書き方・面接対策等を実施していく。また、大学4年生及び短大2年生の就職未内定者には就職支援を継続し、2月に社会人入門講座として、社会に出てから実践で活かせるように、マナーや社会人の心構えの講座を実施する。3月6日には、本学内での企業説明会を開催する。今年企業が行うインターンシップが活発化することが予測され、就職活動の環境は目まぐるしく変化している。

就業ガイダンス(1月11日・第5回就職ガイダンス(1月11日・短大)(1月18日・大学) 社会人入門講座(2月6日) キャリアアップセミナー(2月7日～8日) 学内企業説明会(3月6日) 公務員試験等対策講座 (3月13日～15日)

キャリアアップセミナーの様子

大学ビブリオバトル 福島決戦

高橋麻衣さん(大食・3年)が

全国大会へ

ビブリオバトルは書物などを意味するラテン語由来の言葉で、ゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの書評合戦。

「ファイターX」が最多票を集め、12月18日に京都で開催される全国大会に出場する。



全国大会に出場する高橋麻衣さん

卒業研究発表会が始まる

大学人間生活学科 福祉コースの第27回卒業研究発表会と、生活総合コース・建築デザインコースの第27回卒業研究中間発表会が10月27日に。大学食物栄養学科の第48回卒業研究発表会が11月25日に、それぞれ行われた。発表者と研究題名は次の通り。

- 【人間生活学科 生活総合コース】
 - ▽香り快適な生活に対する検討 橋本 南
 - ▽生活者視点から考える菓の安全・適正使用 沼内 美慧
 - ▽サルトル研究とその周辺 北村 優佳
 - ▽衣服の着装行動及び対人コミュニケーションについて―郡山女子大学生の意識調査を中心に― 遠藤 成美
 - ▽浮世絵から見る女性の髪飾りについて 熊田 絵理花
 - ▽ジーンズについて 小林 理香
 - ▽日本における軍服 新田 春香
 - ▽カラミ織りについて 小林 愛佳
- 【人間生活学科 建築デザインコース】
 - ▽国見町の石工組合にみる職人組織の実態とその変容 菊地 香織
 - ▽福島県矢吹原における住宅改善の実態―戦前の農村指導者教育と開墾事業の関係― 辻 絢子
- 【大学・食物栄養学科】
 - ▽郡山市の子どもの食生活に関する実態調査(3) 大澤 知抄子/舞木 遥
 - ▽培養細胞における発現タンパク質の検討 高橋 七海/堤 彩

- ▽骨粗鬆症予防に関する認知度 橋本 朗子/吉田 麗加/菊地かずみ
- ▽食品の調理法の違いによる嗜好調査 岩崎 華子/宮崎 いつみ
- ▽女子卓球部の食生活の実態・バランスの良い食事の摂り方(コンビニ編) 佐藤 有香里/鈴木 綾子/出口 睦
- ▽さんま、鶏もも肉由来の細菌に対する香辛料の抗菌作用 岡部 玲奈
- ▽学校給食における学級担任の意識調査 近藤菜々香/矢吹 安梨
- ▽小野町の生活習慣病の背景と食の環境に関する調査 伊藤 諭希/竹原 陽奈
- ▽カビの増殖に与える電場の影響 瀬谷 咲良
- ▽おいと味覚の関連性に影響する環境要因の検討 中村 佳寿美/佐藤 望/渡邊 千華子
- ▽福島県内の介護保険施設における嚥下食に関する実態調査 薄井 奈津美
- ▽メキシコの蒸留酒テキーラの嗜好性について 星 有佑子/大木 尚美/菊地 彩加
- ▽女子大学生のやせ志向とBMIの関連について 齋藤 ゆうか/佐藤 由佳

VOLLEYBALL 王座奪還 春高バレー

1月4日(水)金沢商業と対戦

第69回全日本バレー

ボール高校選手権(春高バレー)県代表決定戦を兼ねた第44回F.T.V杯争奪バレーボール選抜優勝大会が11月26日、福島市国体記念体育館で行われ、附属高校バレーボール部が3年ぶり18回目の優勝を果たした。1月4日から東京体育館で開催する全国大会へ出場する。

地区予選から圧倒的な力を発揮した附属高校は県大会で磐城一、聖光学院を破り、決勝では会津学院を3-0のストレートで下した。

佐藤浩明監督、鯉淵瑞希キャプテン、目黒安希選手らは「全国大会では一つでも多く勝ちます」と決意を語った。

▽準々決勝

郡山女子大附属2-0磐城一

▽準決勝

郡山女子大附属2-0聖光学院

▽決勝

郡山女子大附属3-0会津学院



3年ぶりの春高出場を決め大喜びの24名の部員たち



20得点挙げたエース目黒安希

メンバー表		
名前	学年	
鯉淵 瑞希	3年	
目黒 安希	3年	
熊坂 いずみ	3年	
鈴木 遥菜	3年	
遠藤 羽衣	3年	
池田 瑛里佳	3年	
赤石 琴海	3年	
鈴木 咲妃	3年	
橋本 美久	2年	
橋本 菜々	2年	
佐藤 菜菜	2年	
野原 彩衣	2年	
菅野 日菜	2年	
細山 凜	2年	
上原 成未	2年	
岡部 花歩	2年	
永山 朋美	2年	
田母 薫乃	2年	
井上 芙蓉	1年	
目黒 愛梨	1年	
佐藤 麗奈	1年	
樋口 あや子	1年	
上石 優花	1年	
鈴木 優里菜	1年	

3年連続3回目の優勝 ハンドボール部

第54回福島県高校新人ハンドボール選手権大会が11月16日から18日まで、本宮市総合体育館で行われ、附属高校ハンドボール部が3年連続3回目の優勝を果し、来年1月7日、石川町総合体育館で開かれる全国高校選抜大会東北予選会県代表決定戦に出場する。

成績は次の通り。

▽準々決勝

郡山女子大附属37-12福島商業

▽準決勝

郡山女子大附属24-14いわき総合

▽決勝

郡山女子大附属30-16郡山東

メンバー表		
名前	学年	
矢作 陽	2年	
坂牧 朋奈	2年	
渡辺 美紅	2年	
古川 春香	2年	
佐藤 愛水	2年	
武田 真央	2年	
根本 奈々	2年	
後藤 里紗	2年	
長谷川 舞	2年	
佐藤 温起	2年	
江井 利奈	1年	
後藤 絢香	1年	
佐藤 千夏	1年	
吉成 萌	1年	
今泉 咲樹	1年	
塩澤 珠里	1年	
萩谷 帆乃香	1年	



優勝を喜ぶメンバー

平成29年度新役員決まる

【大学学友会】

会長 佐々木瞳(食栄・2年)

副会長 富田恵理(食栄・2年)

副会長 伊藤水葉(食栄・1年)

総務部長 松本みさと(人生・1年)

書記 金田翔子(食栄・2年)

書記 阿部優子(食栄・1年)

書記 鈴木彩音(食栄・2年)

書記 川上 葵(食栄・1年)

庶務 高橋寿実(食栄・1年)

文化部長 渡辺静紅(食栄・1年)

文化部長 大島潤華(食栄・1年)

厚生部長 高橋杏里(食栄・2年)

【短期大学学友会】

会長 佐藤梨奈(幼教・1年)

副会長 山崎 桃(幼教・1年)

副会長 新妻佳織(幼教・1年)
総務部長 佐々木彩莉(食物・1年)
書記 松本玖美(食物・1年)
書記 村田あぐり(食物・1年)
書記 依田 彩(食物・1年)
書記 高根沢しおり(食物・1年)
庶務 圓谷美紀(食物・1年)
庶務 菱沼咲良(食物・1年)
文化部長 館 郁実(食物・1年)
文化部長 神山美優(幼教・1年)
厚生部長 神山美優(幼教・1年)
【附属高校生徒会】
会長 中山優花(普通・2年)
副会長 渡部花梨(美術・2年)
副会長 佐藤 結(美術・1年)
書記 木幡真矢乃(食物・2年)
書記 渡部舞香(美術・1年)
書記 吉田華澄(普通・2年)
書記 酒井和泉(普通・1年)
書記 渡邊美空(普通・1年)

第24回東北高校新体操選抜大会

▽団体 2位

▽個人総合

8位 星 妃羅良(高2年)

12位 渡邊 柚芽理(高2年)



団体2位の賞状を手にするメンバー

県高校新人体育大会卓球大会

▽団体 2位 東北大会出場

▽ダブルス

2位 小林 菜歩(高2年)

3位 菊田 菜菜(高2年)組

3位 押山 桜月(高2年)組

長谷川 春佳(高2年)組

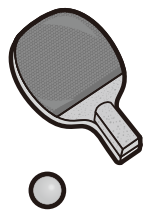
▽シングルス

3位 押山 桜月(高2年)

5位 小林 菜歩(高2年)

9位 菊田 菜菜(高2年)

9位 長谷川春佳(高2年)



平成28・29年度 附属高等学校同窓会役員

会長 大木 恭子

副会長 加藤 玲子

副会長 鳥野 美知子

書記 鈴木 真美(学内)

書記 宗像 若菜

書記 小林 樹里(学内)

書記 根本 正子

書記 安田 典子(学内)

会計監査 白田 美幸

会計監査 澤井 美恵子(学内)

テニス部県南Jr.大会

▽ダブルス

阿部・梶原組(県大会出場)

丸山・田代組(県大会出場)

71回国民体育大会「2016希望郷いわて国体」

○ボウリング

▽成年女子4人チーム戦 7位

大河内 未来(大・食物2年)組

○剣道

▽成年女子の部 5位

松尾 智美先生

ミートデリカコンテスト県大会 武藤美石さんが最優秀賞 伊野秀美さんも優秀賞

国産の牛肉や豚肉を使った食肉総業創作発表会ミートデリカコンテストが10月16日、福島市で開かれ、武藤美石さん(高2年)の「福島島の豊かな恵み!ぎゅぎゅつと肉巻き」が最優秀賞に、伊野秀美さん(高2年)の「豚肉巻きおにぎり」が優秀賞に選ばれた。

県食肉事業協同組合連合会主催の県内から68人の応募があった。県大会には書類審査を通過した武藤さんら6人が参加し、自慢の料理を披露した。

上ノ内さんが知事賞に選ばれる 第37回牛乳・乳製品品利用料理コンクール

県大会は10月17日、福島市で開かれ、上ノ内暖さん(高3年)の「野菜たっぷりまろやかみそラーメン」が最優秀賞の知事賞に選ばれた。今回は、343人から応募があり、最終審査に10人が臨み選ばれた。

▽知事賞 上ノ内 暖(高3年)

▽優良賞 井上 絵里香(短・食2年)

松崎 未来(高2年)

テイルーム

コミュニケーション・フォーラム



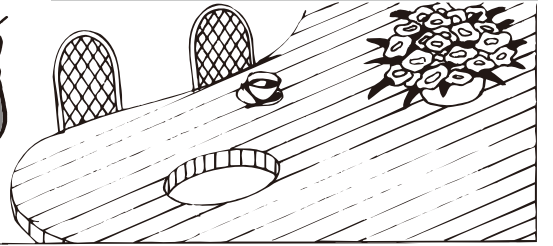
「新体操」

平間 法子

当時高校生だった私が体育大学を選んだ理由は、恩師のような高校の体育教師になり、新体操部の監督として教え子と共に全国インターハイに出場することを目標に掲げたからだったと記憶しています。また、自身自身が高校生アスリートの夢の舞台である全国インターハイ出場を果たすことができなかつたことも理由の一つだったと思います。

大学では目標を叶えるために学び、学生選手権や全日本新体操選手権に団体のレギュラーとしても出場し、アメリカやカナダなどの海外の大会も経験しました。その経験を活かせる高校との出会いが附属高校であり、この出会いに感謝して勤務させていただいてまいりました。

勤務して7年目にして悲願の団体初優勝を果たし、「生徒と共に」夢の舞台である全国インターハイに出場することができたときの感動は今でも脳裏に焼き付いています。結果はノミスの演技でベスト16位の成績をおさめ、生徒の持つ可能性を強く感



1988年 全国インターハイin兵庫

じた試合でした。(当時の写真から)

以来、「感動を再び！」をモットーに今も精進しています。現在は当時の卒業生が地元のジュニアクラブの指導の中心として活躍しており、その力に支えられながら、附属高校の新体操部が福島県の拠点校として継続できていると思っています。本校に入学してくれる中学生の存在があるからこそ部活動が存続できており、こうして今後も附属高校の新体操サイクルが循環できるように、卒業生を支えながら伝統を繋ぐための生徒指導に力を注いでまいりたいと思っています。

ぼちぼち世代交代の時期に差し掛かっているのではないかと今思っています。日頃の頃ですが、「生徒と共に」新体操の道を私なりに歩んで行けたら幸いです。(附属高校教諭)

「7カ年教育を通して」



大学家政学部 人間生活学科3年 鈴木 久絵

郡山女子大学に入学し、3年が経とうとしています。高校時代を含めると学校法人郡山開成学園に在籍して6年が経ちます。6年を通して、私は家庭科教員になりたいという夢を持つようになりました。強く教員

を目指すようになった理由は、福島県の復興大使に任命されたことやNPO法人等の活動の中で様々な出会いを経験し、影響を受けたことにあります。

未来を担い、創造していく子どもたちに対して私が出来ることは「教育を通して、未来を創るために必要最低限の知識と体験する場」を作る事だと考えています。東日本大震災での様々な出来事から得た教訓を、私たちは次世代に伝え活かしていかなければなりません。私は家庭科教員として、東日本大震災の教訓を「教育」の場で活かしていきたいです。

大学での学びを通して、人間守護の家政学を学んだ私は、改めて故郷の家政学を学んだ富左先生の偉大さに気づく日々を送っています。7カ年教育が終わるまでに、あとわずか1年しかありませんが、家庭科教員として必要な知識と教養を身に付け、大学で学んだ家政学を後世に繋げていけるように頑張りたいです。そして、故郷の家政学を学んだ富左先生のように、いつまでも誰かに影響を与えられるような教員になりたいと思います。

「挑戦」



附属高等学校美術科3年 小澤 香純

この度、私の作品が「西会津国際芸術村公募展2016」において、準大賞をいただくことができました。思いがけない受賞に、驚きをおぼえています。私はこの3年間、美術を学んでき

ました。その間、モチーフの選択から、配色、細かい筆づかいにいたるまで、先生方からさまざまなアドバイスをいただきました。ときには、その指導に、「なんでそんなことまで指示されなくちゃいけないの？」と、くすぶった気持ちを抱くこともありましたが、今回の作品はそんな思いが爆発した末に描いた作品でした。「私は描きたいように描く。それが誰かに認められようと認められまいと構わない。」言わば、「子どものわがままのようなものです。自分の納得できるものが描きたかっただけです。その結果、わがままな私には、もったいない程の評価をいただきました。」

私はこれから「デザイン」を職業にしようと思っています。ご存知の通り、デザインの仕事というのは、クライアントの意向に即したデザインを考えなければいけません。今考えると、先生方は「仕事としてのアート」ということを教えてくれたのだと思います。

このような貴重な機会を与えてくださり、私のわがままを見守ってくださった先生方、本当にありがとうございます。

私の本棚

教えるということ(国土社)

郡山女子大学 短期大学部 幼児教育学科 講師 永瀬 悦子

「学んだことの唯一の証は変わる」と「これは教育学者 林竹二先生の言葉である。そして私が教育実践する過程の中で、大事にしてきた言葉でもある。

林竹二先生は全国各地の小・

近年、環境問題といえは温暖化問題のことであり、その対策のためにパリ協定が発効された。かつて環境問題といえはエネルギー問題であった。石油は21世紀初頭にはなくなると言われていたが、現状をみると限りなく予

生活診断室
シリーズ 58
物理学からみたダイエット
郡山女子大学 人間生活学科
准教授 石原 正道

う言葉から分かるように、ダイエットは体のエネルギー問題を扱うことでもある。そこで効率的なダイエット方法があるのかエネルギーの面から考えてみる。既に記したように全エネルギーの増減はないので、摂取したエネルギーは使

想は外れたようである。エネルギー問題という名称は少々誤解を与えている。なぜなら物理学によれば、全エネルギーは増えも減りもしないからである。ここでは全エネルギーは増減しないという点だけに留めておく。

さて先日、ある方から「太りましたね」と言われたので、久しぶりに体重計にのってみた。確かに体重が増えているようなのでダイエットをすることにした。カロリーとい

ルギーを増やすしかない。つまり食べる量を減らすか運動するしかないという当たり前の結論になる。どうやら無制限に食べ運動せずに痩せられるという、都合のよいダイエット方法はなさそうである。

中学校で、「人間について」という主題で授業を展開し、子どもたちの感想文を基に『授業・人間について』他多数の著書をまとめている。

今から約40年前に発行された『教えるということ』という本の一節に「生命に対する畏敬だけが教育を可能にする」という言葉がある。

子どもたちは「生命のある个体」であり、不断に成長する力をもっているが、それが欠けてはどんな教育をしても実を結ばない。幼

い子ども自身は自分に必要とするものが何であるか知らないし、知ついてもそれを確保する力も明確に訴える力もたない、「たよりない存在」である、という。

その子どもたちが健やかに伸びていくには、教師が「たよりの存在」を感じる感性をもち合わせていなければ、「畏敬の念」は生まれないう。教育は「教える」とともに「育てる」ことである。そして、共に「学ぶ」ことでもある。私も子どもたち(学生)と一緒に成長していきたい。

第11回会津国際芸術村公募展2016

- ▽青少年の部
 - 準大賞 小澤 香純(高3年)
 - 佳作 今関 ゆき(高3年)
 - 入選 坪 千晶(短2年)
 - 佐藤 未来(短2年)
- ▽一般の部
 - 西会津町長賞
 - 尾坪 大輔(附属高校教員)

※東京巡回展が11月5日から12日まで、東京都世田谷区のギャラリースペースで開催され、小澤さんの作品が展示された。

食材を使い切ったアイデア料理の出来栄を競う減るレシピコンクール

- ▽最優秀賞 渡辺 実佳(高1年)
- ▽優秀賞 遠藤 夢実(高2年)
- 畠中 優花(高2年)
- ▽佳作 高根沢しおり(短・食1年)
- 石井 凛(高1年)
- 田代 彩璃(高2年)
- 坂本 美咲(高2年)
- 桜田 裕美(高2年)

第2回米粉料理コンテスト

- ▽入賞 夏野菜カレーもちもちピザ
- 吉田 彩花(短・食2年)

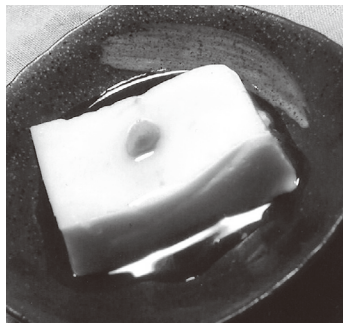
全国病院レシピコンテスト

- ▽減塩ゴロッケ部門
- ▽銀賞
 - 森川 真那(まめめチーズゴロッケ)
 - 佐藤 愛香(すきすきゴロッケ)
 - 遠藤 愛彩(鮭ちゃんゴロッケ)
 - 加藤 真由(きなこチーズゴロッケ)
- ※全員 短・食2年

豆乳レシピ甲子園 郷土料理部門で遠藤真由さんが優秀賞

日本豆乳協会の第3回豆乳レシピ甲子園郷土料理部門で、遠藤真由さん(高2年)の作品「どうぶ」で優秀賞に輝いた。

豆乳の普及、啓発が目的で、郷土料理、おかず、デザート・スイーツの3部門に全国から約900点の応募があった。附属高校からは夏休みの課題として65点を応募した。また、昨年同様優秀学校賞も受賞した。



▲遠藤真由さんの「どうぶ」

全日本合唱コンクール

- 東北支部大会 Aグループ
- ▽銀賞 郡山女子大附属高校

第26回日本クラシック音楽コンクール

- ▽ピアノ部門 高校女子の部出場
- 中谷 仁絵(高・音2年)

第36回全国高校生読書体験記コンクール 県選考会

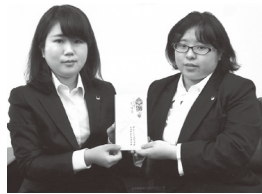
- ▽優秀賞 本田 奏(高3年)
- 本田さんの作品は全国コンクールに推薦された。

FJJP「女性学生懸賞作文」で大越美穂さんに奨励賞

県女性経営者フアラザ(FJJP・上石美代子会長)の第3回「女子学生懸賞作文」審査会で、大越美穂さん(大・食物4年)の作品が奨励賞に選ばれた。「私は女性経営者になつてこんな「しごと」をやってみたい」をテーマに、県内の大学、短大、専門学校に在籍する25歳以下の女子学生から作品を募り、31点が寄せられた。大越さんは「こども達の夢を支えるお弁当屋さん」のタイトルで応募した。

短大・福祉情報専攻が28,440円を届ける

10月1日、2日の両日に開かれた第70回「もみじ会」で、県内産の野菜を委託販売した益金の一部を、学生代表の斑目公子さん・菊地可奈子さん(共に短1年)が県の「東日本大震災ふくしまこども寄付金」に充ててほしいと福島民報社郡山本社へ届けた。



▲斑目さん(右)と菊地さん

赤い羽根共同募金に141,510円の善意

大学・短大友会と附属高校生徒会は年末助け合いの一環として、今年も学内で募金活動を実施し、141,510円の浄財を得た。佐々木瞳大学学友会会長、佐藤莉奈短大学友会会長、渡部花梨附属高校生徒会副会長、佐藤結附属高校生徒会副会長が、11月17日、郡山市社会福祉協議会に寄託した。



▲募金を届けた大学・短大・附属高校の代表

現代童画展 銀座アートホール賞

美術公募展の第42回現代童画展で、短大・幼児教育学科 早川仁准教授が銀座アートホール賞を受賞した。

展示会は11月9日から15日まで、東京都美術館で開かれた。

28年度明るい選挙啓発ポスターコンクール

- ▽優秀賞 大和田 実来(高3年)

県高校新人放送コンテスト

- ▽アナウンス部門 優秀賞
- 室井 愛理(高2年)
- 宗形 美沙季(高2年)

- ※東北大会推薦
- ▽ラジオキャンペーン

- 郡山女子大附属高校
- 『名言』で語る人生の縮図
- ※東北大会推薦

郡山税務署「税に関する高校生の作文」

- ▽郡山法人会会長賞
- 押田 菜摘(高1年)

第60回郡山総合美術展

- 洋画の部
 - ▽大賞 高橋すずね(短・生芸1年)
 - ▽奨励賞 阿部 かな(短・2年)
 - 井本 沙也香(短・2年)
 - 佐藤 未来(短・2年)
 - ▽入選 坂井 智絵(短・1年)
 - 松山 茜(短・1年)
 - 草野 瑞穂(短・2年)
 - 齋藤 あかり(短・2年)
 - 坪 千晶(短・2年)
 - 森 友佳(短・2年)
- 彫刻・工芸の部
 - ▽青少年賞 須賀 愛良(短・1年)
 - ▽入選 佐藤 野萌(短・2年)
 - 高松 絵美(短・2年)



八巻 美知子さん 平成15年度 短大政科福祉情報専攻卒業

八巻美知子さんは、社会福祉法人郡山福祉会の「特別養護老人ホームうねの里」勤務を経て、現在は同法人の「軽費老人ホーム采女の里やすらぎ」で、生活支援員として勤務しています。

短大時代にヘルパー1、2級を取得したものの、卒業後2年間は介護と関係のない仕事についていたそうですが、「せつかくの資格を活用しないのはもったいない」と思い転職しました。ブランクがあった私は、特別養護老人ホームに入社し、働きながら実務経

先輩を訪ねて



佐藤 知佳子さん 平成22年度 短大政科食物栄養専攻卒業

佐藤知佳子さんは、喜多方市にある「養護老人ホーム 鮮雲荘」で、栄養士兼調理師として勤務しています。最近では、献立を立てたり、発注業務を任されることもあるそうです。「1日3食提供なので、朝の6時前には出勤しなければならなかったり、年末年始やお盆も休めないといった大変さはありますが、利用者様に『おいしい』と言ってもらえたり、施設の行事と一緒に参加する時、やりがいを感じます」と佐藤さん。「利用者様に笑顔で接すること、現場に入る際は衛生面や事故等に十分気を

験を積み介護福祉士資格を取得しました。その努力が実り、介護の現場で働くようになって9年目。「軽費老人ホームは、60歳以上の自立した元気な方が入居されているので見守りや傾聴といった仕事を中心ですが、人生の先輩である入居者様のお話を聞けることが何よりも勉強になります」。入居者様から「ありがとう」と言われる時、自分が少しでもお役に立てているのだと嬉しくなります、という八巻さんです。

「私は、社会に出てから資格の大事に気付かされました。何が自分に合うかやってみなければわかりませんが、興味がある時がチャンスです。皆さんも、ボランティアなど、いろんな体験をして自分に合うことを見つけたいと思います」。

付けること」などを、平日頃心がけているそうです。

また、短大時代に卒業研究で、『糖尿病の食事について』をテーマにしたことから、「疾患のある利用者様に少しはアドバイス等できているかな」と思います。他にも「幼稚園での学内実習や病院での学外実習、もみじ会でけんちゃんうどんを作ったこと」などが、短大時代印象に残っているそうです。

最後に、「私たちは震災があつて卒業式ができませんでした。本当に何が起ころかわかりません。だからこそ、在学生の皆さんも、学生生活を悔いのないように送ってほしいと思います。夢を大きく持ち、その夢に向かって進んでいくください」と、先輩の皆さんへ力強い言葉をいただきました。

短大・音楽科定期演奏会

短期大学部音楽科の第47回定期演奏会が11月12日、建学記念講堂で開かれた。

オーディションで選ばれた11人がピアノ、フルート、クラリネットの演奏、それにソプラノ独唱に分かれ、学習成果を披露した。ピアノではショパンやドビュッシー、ラベルの曲などが奏でられた。最後は学生が参加している開成学園オーケストラが「8つのロシア民謡」を演奏した。

会場を埋めた聴衆から惜しみない拍手が送られた。



学習の成果を披露

郡山女子大生が考案したオリジナル弁当販売

大学食物栄養学科とJA福島さくらが共同開発したお弁当が11月4日に完成した。JA福島さくらと締結した包括的連携協定に基づいた事業で、4月から共同で弁当の開発に取り組んできた。

JA福島さくら旬の庭久留米店で発売された「ピピンバ変わり丼」と「彩り弁当」は郡山市のブランド米「あさか舞」と地元の農産物を多く



弁当販売する石井さん(左)と佐藤さん

使用しており、売り出し初日の4日には、弁当を考案した食物栄養学科2年の石井千遥さんと佐藤葵さんが店頭で販売した。いずれも500円で、10日までの7日間、20個が限定販売された。

楽しくおいても堀り

附属幼稚園

JA福島さくらさんのご協力により、とても広いサツマイモ畑での芋掘りを行う事が出来ました。



ロボットでサッカーゲームを楽しんだ子どもたち

畑には年長組の各クラスで作った大きな看板があり、子ども達も「私たちが描いた看板だ!」と少し誇らしげな笑顔を浮かべていました。



自分たちが描いた看板の前でパチリ

稲刈りを体験

短大・食物栄養専攻の2年生が福島県農業総合センターで稲刈りを行った。卒業研究の一環として5月に植えた県の推奨米「天のつぶ」ともち米の「こがねもち」の稲刈りをした。



収穫したお米を食べるのが楽しみ!

紙上美術展 81

平成27年度 第61回卒園記念屏風

附属幼稚園



「みんなの ゆめ」やなぎ組

「おおきくなったら、けいさつかんになりたい!」「わたしはキーキヤさん!」「ぼくはラグビーのせんしゅ!」「わたしはおかあさんになりたいたい。やなぎ組のお部屋で、大きくなったら何になりたいか、よくお話しをしてみました。たくさんあつて、決められないこともありました。幼稚園でたくさん遊んで、いろいろな経験をして育てたみんなの夢です。」「いつか、ゆめがかないますように!」「おおきくなったら、たのしみだね!」そんな気持ちをこめて、みんなの夢の絵を描きました。

BOOK 郡山女子大学 大学図書館

新しい本が届きました... 第3回

このほど大学図書館では、書店の現場で学生に本を選んでもらう「選書ツアー」を実施しました。今回は学生が選んだ本を紹介します。



『幸せになる 勇気』

岸見一郎, 古賀史健著, ダイヤモンド社 請求記号 146.111Ki

『世界でもっとも 貧しい大統領 ホセ・ムヒカの言葉』



佐藤美由紀著, 双葉社 請求記号 31211Sa



『短歌ください 君の抜け殻篇』

穂村弘著, メディアファクトリー 請求記号 911.1611Ho

『たったひとつの冴えたやりかた』

ジェイムズ・ティプトリー・ジュニア著, 浅倉久志訳, 早川書房 請求記号 933.711Ti



木もれ陽

「感性の庭に知の花が咲く」と云う、名誉学園長先生のお言葉があります。芸術から得られる本物の感動は、作品との一期一会の出会いから生まれてくると感じています。そこにはコピーでは味わえない、本物の世界が我々を魅了し続けています。芸術が鑑賞するポイントの1つは、表現テーマの良さで平たく言えば絵心や歌心といったもの。例えば歌を聴いた時、歌詞に共感し・旋律・リズムなど面白く心地良いな、などと感ずるものです。これは画質や音質があまり良くないコピーでもその良さは感じる事が出来ます。もう一つは作品が直に放つ強靱なエネルギー、

(七)